

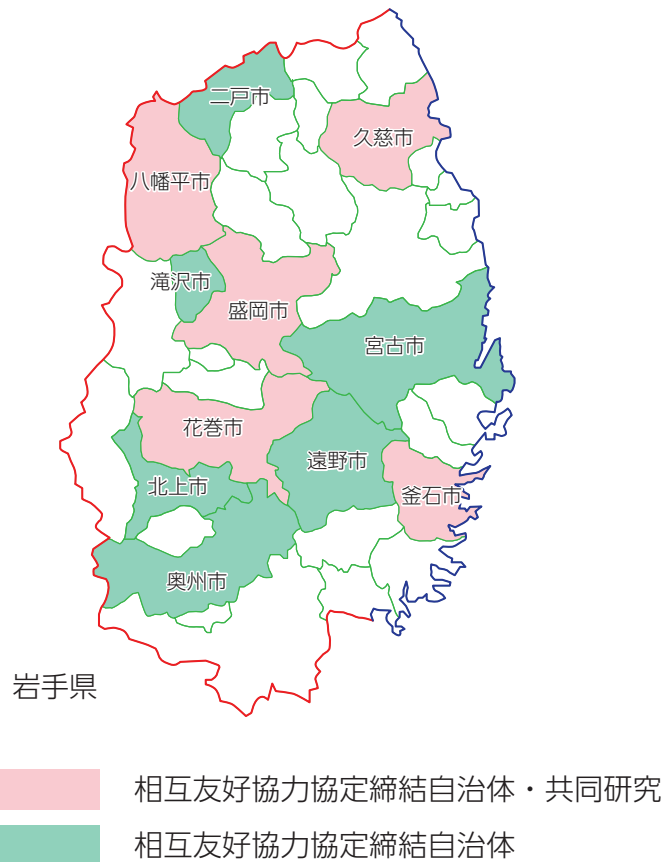
## 04 共同研究員について

### 相互友好協力協定締結自治体／共同研究員

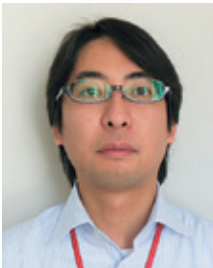
岩手大学では、県内の13自治体※と文化・学術の分野で支援及び協力をするために相互友好協力協定を締結している。

また、実践的な取り組みとして、平成28年度は相互友好協力協定締結自治体の5市（釜石市、花巻市、盛岡市、久慈市、八幡平市）と共同研究を行い、地域創生部門に市職員を共同研究員として受け入れた。

※旧水沢市と旧江刺市を含む



### 平成28年度共同研究員



釜石市共同研究員  
井上 諭宜



花巻市共同研究員  
伊藤 玲



盛岡市共同研究員  
柳原 哲史



久慈市共同研究員  
宮本 幸治



八幡平市共同研究員  
佐々木 靖人

## ■活動内容

### ●地元企業・団体のニーズ(課題)と、岩手大学のシーズ(技術・知見)をマッチング

地元企業・団体・公的機関等を巡り、課題や前進の芽を拾い集めて、岩手大学の持つシーズや大学生の柔軟な発想をもって解決できないか検討し、マッチングとサポートを行った。

### ●地域の課題解決に向けたきっかけ作り

地域の企業や団体等が抱えている課題を解決する一つの手段としての岩手大学の活用を知ってもらうため、車座研究会などの会合を開催した。

### ●大学による地域人材の育成や、大学による地域への教育支援を側面からサポート

将来の地域を担う人材を育てるための大学の活動をサポートしたり、大学による震災復興や地域への教育支援について、マッチングやサポートを行った。

### ●東日本大震災からの復興と、地域創生に向けた大学と地域の活動のサポート

東日本大震災からの復興や、地域創生を見据えた各種の大学と地域の協働活動に対して、大学と地域が円滑に事業を推進できるようにサポートを行った。

### ●盛岡市のブランド推進について大学生が議論する機会を提供

盛岡市ブランド推進市民会議から、市民への認知度が高いとは言えない盛岡ブランドの推進について大学と連携して若者に考える場を作ってほしいと依頼を受けた。人文社会科学部の五味壮平教授に相談した結果、1年生を対象とした初年次自由ゼミナールで都市ブランドに関する講義を行い、12名の学生が参加した。

盛岡の特徴を自ら探し出すまち歩きを経て、一般市民にも参加を募ったワークショップ「盛岡ブランドについて考える」を開催。最終日には市のブランド推進担当の職員の講義を実施した。ワークショップにおいてはブランド発信に何が効果的であるか学生ならではの意見が多数出され、今後のブランド戦略を考える上での参考とすることができた。このような学生の知見を活かした結果を出せる機会を多く提供し、ブラッシュアップしたうえで実際の施策に落とし込むことができるようにすることが理想であると考えている。



ワークショップの風景

### ● 地域資源を活用した新商品「釜石 柿の葉すし」開発のサポート

釜石市甲子地域の特産品である「甲子柿」は、近年、その生産拡大と消費拡大が期待されている。しかしながら、柿生産者らは未利用部分である柿葉の有効利用ができないかという課題を抱えていた。また、震災後に起業して釜石市産海産物の更なる消費拡大を目指していた水産加工事業者は、市内外のイベント需要に応えたり、観光客をおもてなしできる新商品ができないか模索していた。

そこで、その両者の課題と強みをマッチングし、更に岩手大学の知見を活用することで、地域資源を活かした新商品を開発すべく、事業のサポート全般を行っている。具体的には、新商品開発に向けた各種事業補助を受けるための事務的なサポート、岩手大学の食品専門家による指導や共同研究を遂行するためのサポート、更には今後の販路開拓や進展のための各種対外的アプローチにおけるサポートも行っている。

結果、現在は岩手県内にてお弁当「釜石 柿の葉すし」としての販売を開始することができた。事業は引き続き継続しており、更なる販路開拓を目指している。

### ● 「復興支援学習会 in 釜石」開催の補助

平成28年度の冬休み期間中、釜石市立大平中学校にて教育学部主体の大学生が2泊3日で中学生に学習支援を行うという形式で実施した。主催は岩手大学三陸復興・地域創生推進機構学習支援班によるもので、「沿岸地域・被災地域の中学生の学力向上」や「釜石市内中学生の大学等への進路意識のきっかけづくり」について岩手大学と一緒に取り組みたいという大平中学校からの要望を、釜石市共同研究員が岩手大学に相談したことが端緒となって開催された。実施にかかる計画や事前準備は、学習支援班長である岩木信喜准教授を中心に、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構スタッフに釜石市共同研究員を加えて、大平中学校のニーズ等を確認しながら遂行した。

三日間で延べ97名の中学生が参加し、大学生は延べで21名がボランティアで参加した。次第に打ち解けた中学生と大学生は、勉強だけでなく大学生生活や今後の進路についてもコミュニケーションをとったり、最終日には互いに言葉と感謝の手紙を交換するなど、双方にとって学びのある時間となった。

### ● 久慈産琥珀抽出物を配合した化粧品の開発・販売

久慈琥珀(株)と農学部木村賢一教授の共同研究により、久慈産琥珀から抗アレルギー成分を含む新規物質「kujigamberol (クジガンバロール)」を発見した。化粧品製造会社の実生(株) (東京都)も共同研究に加わり実用化検討に向けた研究が継続され、化粧品5種の販売に至った。久慈産琥珀の有効活用という相談から足掛け9年かけて商品開発・販売までたどり着くことができた。化粧品以外での活用についても研究継続しており、今後の更なる地域資源のブランド化を目指し、企業の雇用確保を通じた震災復興と経済的格差解消への助力となることを期待している。



商品化した化粧品「LaDonaco」セット

### ● 「地域連携フォーラム in 久慈」の開催

平成29年2月20日、久慈市において岩手大学地域連携フォーラムを開催した。菅原三陸復興・地域創生推進機構長が、これまでの震災復興や地域創生への大学の取組を紹介し、久慈エクステンションセンターの川尻特任専門職員と久慈市から派遣されている宮本共同研究員からそれぞれ活動紹介を行った。併せて岩手大農学部木村教授から「久慈産琥珀からの人類への素敵な贈り物」と題した事例発表、いわてキボウスター開拓塾1期生による活動報告、久慈高生による国体盛り上げ企画の活動報告を行った。約100名の参加者があり、参加された市内企業からは、岩手大学の研究の情報を知りたいのでこのようなフォーラムを継続して欲しいなどの感想が寄せられた。

## ● 地元住民自らが作成する地域防災マップ

八幡平市西根寺田地区が、東日本大震災や昨今の台風被害等で地域防災についてより考えなくてはならないということから、岩手大学地域防災研究センターの協力のもと、住民自らの手で地域防災マップを作成した。この活動では、地域防災マップの作成だけでなく、現地調査や防災に関するワークショップなど地域防災に関係する活動を幅広く行っている。

今後も岩手大学地域防災研究センターとの関わりを続けながら地域防災への取組みをさらに強化していく予定である。

※また、平成28年度地域活性学会で、この活動の内容について事例発表も行った。



地域防災マップ作成に当たり地域防災センターからアドバイスを受けている様子

## ● 「岩手大学開発品種ダイズ「貴まる」」を活用した特産品の開発

岩手大学が開発したダイズの新品種「貴まる」を岩手大学農学部寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢農場のサポートを受けながら八幡平市内で栽培し、地元加工業者が豆腐や納豆に加工し販売を行う取組みを行っている。

「貴まる」は、現在八幡平市のみで生産されており、生産から加工販売まですべて地元で行うことができるため、新たな特産品への期待が高まっている。

今年度は、少量ではあるが商品化をすることができたので、今後は少しずつ生産量を増やしながらか取組んでいく予定である。



「貴まる」試食会の風景

## ● 「安比塗」の知名度アップ及び新商品開発へ向けた取組

八幡平市の伝統工芸品の「安比塗」については、技術も品質もしっかりしているが、全国に対する知名度が決して高いとは言えない状況である。

そこで、岩手大学のサポートを受けながら「安比塗」について、岩手大学のシーズや学生のアイデアを受けながら知名度アップ活動や新商品開発に取り組んでいる。

地域課題解決プログラムでは、学生が海外インバウンド客向けの商品の提案を行ったり、岩手大学教員と一緒に「安比塗」の今後のブランディング等を考えたりしながらサポートしている。

## ● 「車座研究会」の開催

地域の課題について相談があった場合、その解決に向けた最初の取組みとして「車座研究会」を開催している。「車座研究会」は、岩手大学と八幡平市が主催する会合で、地域が抱える課題について対象者と大学教員等が話しをするものであり、少人数で開催することで気楽に発言ができるのも特徴である。

これをきっかけとして、課題解決に向けた取組みにつながっていく事例が多くなっており、毎年3回程度行っている。